

平成22年度日本海ブロック水産業関係試験研究開発推進会議研究部会報告
 海区水産業研究部会報告

日時：平成22年11月18日（木）13時00分～17時00分

場所：コープシティ花園4F ガレソンホール（新潟市）

参加機関：13機関 26名

議事	議事概要
<p>(1) 報告事項 1) 平成21年度協議事項について</p> <p>①各種稚魚調査の情報交換について</p> <p>②研究開発ニーズについて</p> <p>③日本海で今後実施すべき研究及び体制について</p> <p>2) ブロック内で連携して取り組んだ研究について</p> <p>①海区水産業研究部会傘下の会議報告</p> <p style="padding-left: 20px;">a. ヒラメ分科会</p> <p style="padding-left: 20px;">b. 増養殖研究会</p> <p>②栽培漁業資源回復等対策事業</p> <p>③栽培漁業関係研究開発推進特別部会アカアマダイ分科会、マダラ分科会</p> <p>④農林水産技術会議「新たな農林水産施策を推進する実用技術開発事業」「環境変化に</p>	<p>日水研時村所長のあいさつの後、海区水産業研究部長を座長として議事が進められた。</p> <p>座長から各項目について以下の報告があった。</p> <p>○提案県からの要望を受けて協議し、漁業資源部傘下の会議で検討することとなったことが説明された。</p> <p>○藻場課題については海区水産業研究部会傘下の増養殖研究会において、引き続き検討することが説明された。</p> <p>○日本海全体で共通する研究、県境を越える種の研究の先導、ヒラメ放流マニュアルの整理の要望があったことが説明された。</p> <p>座長から各項目について以下の報告があった。</p> <p>○本研究部会直前の11月17、18日に18機関37名の参加を受けて開催されたことが報告された。</p> <p>○前年度は3月9日に11機関23名参加で開催され、今年度も3月に開催予定であることが報告された。</p> <p>○日本海北部ヒラメ、中西部ヒラメ、日本海中部マダラがそれぞれ行われていることが報告された。</p> <p>○前年度アカアマダイ分科会は3月2日に石川県輪島で開催され、22年度は長崎県で開催の予定であること、マダラ分科会は11月11日に青森県むつ市脇野沢で開催されたことが報告された。</p> <p>○事業は概ね順調に進捗しており、その途中経過が日水研成果発表会で発表されたことが報告された。</p>

<p>対応した砂泥域二枚貝類の増養殖生産システムの開発」</p> <p>3) 平成22年度水産研究実施概要及び平成23年度研究計画概要</p> <p>(2) 協議事項</p> <p>1) 平成22年度水産研究成果情報候補課題について</p> <p>2) ブロック内での研究の連携協力について</p> <p>① 研究開発ニーズについて</p> <p>② 日本海で今後実施すべき研究及び体制について</p> <p>4. その他</p> <p>閉会</p>	<p>○9府県、水研日本海栽培3センター、日水研から、実施中及び実施予定の課題の概要の説明と質疑が行われた。</p> <p>○府県から提案された成果情報候補課題の内、以下の3課題について提出機関からの説明と質疑が行われた。部会における検討をもとに提出機関で指摘事項について微修正の更新することとして承認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヒラメ種苗は囲い網で馴致すると放流後の生残が向上するか ・ 七尾湾におけるトラフグ産卵場調査 ・ ホンダワラ類の藻場造成技術マニュアル <p>○山口県から要望があったアカアマダイ種苗生産・放流課題は、栽培漁業ブロック会議傘下のアマダイ分科会で、キジハタ放流課題は同キジハタ分科会で、はた類種苗生産課題は養殖研究推進会議傘下のはた類分科会で、アワビ衰弱課題は、アワビ増殖技術研究会九州ブロック会議で、それぞれ取り組み方の整理を行うこととなった。</p> <p>○日本海で行うべき沿岸資源研究について協議した。系群全体の資源評価結果が地域の印象と合わないこと、大中巻き網のコントロールが困難なことなどの現状報告があり、価格が上昇し乱獲傾向にあるナマコ研究や、漁業者数が減少する中で目標を明確にできるキーワードが必要、などの要望があった。</p> <p>なし</p>
---	--